

「生物多様性を感じよう！ 第二回オンライン自然観察会」開催レポート



開会挨拶 環境省 自然環境局長 奥田直久

このイベントは環境省が進めている「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトの一環として開催されるもの。今から四年前に養老孟司先生に編集委員長をお願いして、子供向けの読み物として制作したのが読本『森里川海大好き！』。この本をテーマにした読書感想文コンクールを開催して、表彰式などで森里川海をテーマにした講演会などを実施してきた。しかし昨年からの新型コロナウイルスの感染拡大によって、皆さんに実際に集まっていただくのが難しくなってしまう、昨年の秋からこの様なオンライン観察会を企画することとなり、今回はその2回目。オンラインでも生きものや自然の面白さや楽しさを、少しでも感じ取っていただいて、実際の自然とどんどん親しんで頂きたい。そしてコロナが落ち着いた頃には、本日紹介する世界自然遺産や国立公園など豊かな自然のある場所に足を運んで満喫していただけたらと思う。自然に親しむことで、自然をより良く正しく理解できるようになる。

昨日近くの公園で虫を探していたら、動物の糞を見つけた。タヌキの糞だと思う。確かに夜の帰宅時に公園の入り口でタヌキを見たことがあった。ぜひ身近な自然にも目を向けて頂けたらありがたいと思う。そうした活動を通じて、自然を守ろうという健やかな心を養

っていただけたらと思う。そして自然をちゃんと理解する。そういったことが心の中に刻まれていくことを期待する。今日はぜひ、一緒に楽しみましょう。

第一部 自然遺産と国立公園よりオンラインで中継

第一部では、世界自然遺産・白神山地と屋久島国立公園から、事前に制作した動画を上映して参加者に視聴して頂き、終了後に参加者からの質問などについて、現地のレンジャーから直接回答して頂いた。

1. 世界遺産・白神山地（世界遺産センター(藤里館)

現地レポート

藤里自然保護官事務所 レンジャー 小笠原孝記

世界遺産センター（藤里館） 自然アドバイザー 白鳥万里

環白神エコツアーリズム協議会 事務局員 佐藤和明

動画制作

藤里町（*著作権の関係で動画データでは一部削除しています）

世界自然遺産に登録された白神山地の自然について説明する小笠原自然保護官



予定では高台から白神山地を中継で見せてくれる予定だったが、当日は吹雪のため世界遺産センター（藤里館）の周辺の自然について紹介した自然アドバイザーの白鳥さん



白神山地の四季の自然について、環白神エコツーリズム協議会の佐藤さんが動画で見せてくれました



参加者からの質問

Q. 特別天然記念物とかは、約何種類いるんですか。

A. 特別天然記念物としてはニホンカモシカ。他に珍しいものとしてはクマゲラでさっき近くを飛んでました。北海道ではよく見られますが、本州ではなかなか見られませんよ。

Q. 白神山地だけで見られる花とかはありますか。

A. 白神山地特有の花としては、アオモリマンテマ(ナデシコ科マンテマ属)があります。

2. 屋久島国立公園（屋久島自然保護官事務所）

現地レポート／動画制作

屋久島自然保護官事務所 レンジャー 市川惇史

屋久島自然保護官事務所 アクティブレンジャー 池田裕二

屋久島自然保護官事務所 アクティブレンジャー 水川真希



レンジャー
いっちゃん

アクティブレンジャー
まっきー いけちゃん

よろしくね！！

アクティブレンジャーの水川さんが、ヤクザルとヤクシカの珍しい生態について紹介してくれました。これはサルがシカに乗る屋久島ならではの光景



お尻の白い毛をふくらませて警戒する様子や、落ちた角をシカが食べる珍しい行動について紹介してくれました。



参加者からの質問

Q. シカが角を食べていたのはどうしてか気になりました。

A. 子供がいて栄養が必要なメスのお母さんが食べているというお話を聞きます。あくまでも可能性ですが、葉っぱではとれない、カルシウムとかミネラルとかの栄養を角からとっているのかもしれない。

Q. サルは毛が長かったですけど、暑くないんですか。

A. サルも暑いときがあると思うけど、いつもは涼しい森の中にいます。どうしても暑い時は、鉄でできた冷たいガードレールとか、冷えてる大きな石にピタッとくっついていたりすることがあります。

第二部 観察会の上映とご講演

講師：Ant Room主宰／アリ探求家 島田拓

最初に、島田先生がフィールドにしている板橋城址公園（東京都板橋区）で撮影した自然観察会の動画を上映した。



朽木を割ってオオハリアリを見せてくれた



朽ちたドングリからウロコアリを発見。見やすい様に白いバットに置いて見せてくれた



動画上映に続いて、「身近でくらすアリの世界」というテーマでご講演していただいた。



では映像で紹介したアリを含めて、「身近でくらすアリの世界」というテーマでアリの世界を紹介します。アリについては皆さん知っていると思うけど、巣の中で何をしているか、どうやってアリの巣が増えていくのかについては知らない方も多いと思います。ぜひ今日は学んでいただけたらと思います。

アリは種類がとても多くて日本だけで約 300 種類生息している。家の近所の板橋城址公園でも 40 種のアリを見つけられる。この写真は日本最大のムネアカオオアリで女王アリの体長は約 17 ミリでとても大きなアリ。下の方に小さく映っているのが日本最小の 2 ミリ程度のコツノアリ。一言でアリと言ってもこれだけの体格差があります。色や形、大きさ、食性、いろんなことが種類で変わってきます。

動画で最初に出たクロナガアリは、日本では唯一、種子を主食にするアリ。ふつうアリは秋以降になると土に深くに潜って冬眠の準備を始めるが、クロナガアリは種子が地面にたくさん落ちる秋以降になってから活発に活動する。もう一つの特徴は巣がとても深く、4メートルに達することもある。収穫した種子を貯めるには、深い方が光や温度の関係で条件が良いため。童話の「アリとキリギリス」では冬に備えてアリは食料を集めることになっているが、もしかしたらクロナガアリがモデルなのかもしれません。他のアリは冬眠前に食料を貯めることはしません。巣の周りでは、様々な種類の種子を忙しそうに運んで

いるのを見ることができる。3月上旬でも活動しているので、芝生や草むらがある広い場所でじっくり探すと見つかります。

次は動画で2番目に出てきた、朽木の中に巣を作っていたオオハリアリ。毒針で獲物を捕らえるアリで、生きていた昆虫を、お尻の毒針で刺して捕まえる。人間にとっては強い毒ではなく、チクッと痛い程度。

これは顎がカッコいいウロコアリ。まるでクワガタムシの様に長い顎を持っていて、この顎を全開にすると180度まで開き、開いた状態で獲物に近づいてガチンと閉めて捕らえる。これはトビムシを捕らえた写真。ウロコアリも街中の公園に普通に生息しているアリで、僕がアリを探し始めたときに初めて存在に気付いたのがウロコアリ。こんなカッコ良いアリが身近にいたことに驚いた。

次は日本最大のクロオオアリ。先ほどムネアカオオアリを日本最大と紹介したが、実は日本最大のアリはこの二種類で同じ大きさ。ムネアカオオアリはその名の通り胸が赤いが、クロオオアリは全身が黒い。クロオオアリは平地の公園にも普通に生息している。今日はこのクロオオアリの生活について紹介します。

これからアリの基本的な家族について紹介します。アリの巣にはまず女王アリがいて、その巣の中の全てのアリの母親になる。体長は約2センチでかなり大きなアリ。ふだん巣の中で暮らしているのは働きアリと兵隊アリでどちらもメス。実はどちらも働きアリで、一部の働きアリが体が大きくなって兵隊アリとして力仕事を担当する。そして繁殖期になると、羽が生えた女王アリと羽が生えたオスが巣の中で生まれることがある。この羽が生えたアリたちは、5月の雨が降った翌日の晴れて暖かい日の午後に一斉に巣から出てきます。この行動はアリでは良く見られる行動で、結婚飛行と呼ばれるアリの繁殖行動。その地域で暮らすクロオオアリの巣穴から一斉に羽アリたちが出てきて、空中に飛び立ちます。空中に飛び立った女王アリとオスアリは空中で交尾をして地面に降りてくる。すると女王アリは自ら羽を切り落とし、交尾を終えたオスアリは役割を果たしたので死んでしまう。オスアリは結婚飛行で女王アリと交尾するためだけに存在している。羽を落とした女王アリは自分で地面に穴を掘って巣穴を作り、そこで卵を産んで子育てが始まり、新しいアリの巣が誕生することになる。

アリは完全変態なので、卵・幼虫・蛹・成虫と成長していく。アリは蛹になる前に口から糸を吐いてカイコと同じように繭を作り、その中で蛹になる。種類によっては繭を作らないものもある。その後羽化することになるが、自分で繭から出ることが出来ません。女王アリが顎で繭を破いて、中から出てくる手助けをしてあげます。これは何度見ても感動する場面。アリは卵の時点から一匹では生きていけず、女王アリや働きアリに世話をしてもらって、やっと成虫になることができる。これも社会性昆虫であるアリの特徴です。結婚飛行から1か月半が経つと働きアリが何匹か産まれて後から生まれたアリの世話をするようになり、アリの小さな家族が誕生する。実はアリはとても寿命が長く、女王アリは10

年から20年と言われて、昆虫の中でも1番か2番目の長生きで、その間女王アリはずっと卵を産み続けて働きアリが増えていきます。

僕を感じるアリの魅力は、やはり家族で協力して暮らす社会性にあると思っている。他の多くの昆虫は卵から産まれたら自分の力だけで生きていくけど、アリはそれが出来ない。家族による子育てがあって、それではじめて生きていけるところが人間とかぶる部分があって面白いと思う。

社会的な面で見ている面白いのは、さっきの繭を顎で破る行動。最初の子どもは女王アリが破るが、働きアリが産まれた後は働きアリが破いて手助けするようになる。またアリはより良い環境を見つけると、新しい巣に家族全員で引っ越します。その時に、仲間の働きアリの顎で啗って運んであげます。この時運ばれるのは、まだ繭から出たばかりで色の薄い若い働きアリ。自分でうまく歩けないので、年上の働きアリが運んであげる。運ばれるアリは体を丸めて脚を折りたたんで、運ばれやすい体形になります。

さきほどの動画では屋久島のサルがグルーミングをしていたが、アリも仲間どうしてグルーミングをする。相手の体を舐めてグルーミングし、舐められたアリはとても気持ちよさそうな顔をする。脇の下を舐められたりすると、体を傾けて脚を上げるなど気持ちよさそうな仕草をする。昆虫とは思えない、動物を見ている様な感じになります。

アリの巣には好蟻性生物という、アリと暮らす生きものたちがたくさんいます。これはクロシジミという蝶の幼虫で、クロオオアリから口移しで餌をもらって育てていく。シロオビアリヅカコオロギも、アリから口移しで餌をもらわないと生きていけない。アリは仲間同士で口移しで餌を与えるが、このコオロギはその習性を利用してアリから餌をもらっている。アリが他のアリから餌をもらうときは、相手の頭を触覚や脚でたたいて餌の吐き戻しを要求するが、このコオロギも脚でアリの頭をたたいて「ご飯頂戴」とやるんですよ。これは何万年、何十万年もかけてできあがってきた関係と思われる。ではなぜアリはコオロギに餌をあげるのか。実はアリは眼がほとんど見えていない。敵か味方か、同じ家族か違う家族かは、すべて匂いで区別している。触覚で触れたときに匂いがわかり、同じ匂いがすれば同じ家族だとわかる。このコオロギはアリの体の匂いを自分の体に塗りつけて同じ匂いになることで、仲間に成りすましていく。コオロギはアリの体をグルーミングしている様に見えるが、実はアリの体の匂いを盗みとっている。アリの体からなめとった匂いを前脚に塗り付けて前脚で全身に塗り付ける。すると全身がアシナガアリと同じ匂いになり、アリは完全にだまされてコオロギが仲間だと思い込んで餌を与える。

もっと深い関係があるのはミツバアリで、巣の中にはアリノタカラというカイガラムシの一種が必ず一緒に暮らしている。アリが啗っている白いのがアリノタカラで、アリノタカラはミツバアリの巣の中でしか見つかっていない。ミツバアリはアリノタカラの甘露と呼ばれるおしっこを餌にしている。カイガラムシはアブラムシに近いグループの昆虫で、植物の汁を吸ってお尻から甘露と呼ばれる蜜を出す。ミツバアリは巣の中で植物の根っこにアリノタカラをくっつけて、アリノタカラが根っこから汁を吸ってお尻から出る甘露を

餌にして生きている。アリノタカラも結婚飛行をするが、その時どうするかというと、女王アリがアリノタカラを一匹啜えて一緒に飛び立っていくんです。アリノタカラは単為生殖といってメスしか存在せず、メスだけで繁殖できる。一匹だけ連れて行けば、アリノタカラは新たな巣で卵を産んで繁殖していく。交尾を終えた女王アリはアリノタカラと二人で生活していきます。この様なアリと他の虫の関係も、見ていてとても面白い。

地球で暮らす生きものたちは、様々なかたちでつながっている。これらが暮らす環境はとても大事なので、皆さんも近所の公園に行って、小さなアリなんかを観察して、ここにはこんな生きものがあるんだなっていうのを知ってもらえたらと思います。

最後まで聞いてくれて、ありがとうございました。

参加者からの質問コーナー



Q. 羽アリはいつごろ飛びますか。

A. さっきのクロオオアリは5月だけど、種を食べるクロナガアリが日本では一番早くて4月。クロヤマリは6月で、種類によって異なります。

Q. 島田先生にとってアリの面白さは何ですか。

A. 家族で暮らす社会性昆虫であることや、種類数が多いこと。街中の公園でも30から40種のアリが暮らしていて、それぞれが違った生き方をしているので、どのアリを見ても面白いですね。

Q. ツノゼミとアリが深い関係にあると図鑑に書いてありました。アリにとってどんなメリットがあるんですか。

A. ツノゼミは植物の汁を吸って、お尻から甘露と呼ばれるオシッコを出します。それでアリの引き付けるので、ツノゼミの周りにはいつもたくさんのアリがいる。それは、ツノゼミがアリのガードマンとして雇っていると言えるかもしれません。アブラムシもそうですね。これから春になりますが、公園でマメ科の植物を見つけたら、アブラムシがたくさん付いているかもしれません。するとその周りにはアリもたくさんいるかもしれないので、

そういうのを見つけて楽しんで見てください。アブラムシは甘露を出して。天敵のテントウムシから守ってもらっているという関係です。

Q. アリがいなくなってしまうたら、僕たちの生活で変わることはありますか。

A. ものすごく変わると思う。アリは地球上に1.5~2万種いると言われ本当にたくさんの種類があるので、アリが虫を食べるということもあります。地球上からアリがいなくなったら、生態系はものすごく変わると思います。身近でアリがたくさん暮らせる環境を残すのが、とても大事なことだと思っています。

Q. 毒を持っているアリは何種類いますか。

A. 実は、ほぼすべてのアリが毒を持っています。大きく分けると毒針を持っているアリと、針は無いけどお尻から蟻酸をふりかけるアリがいます。毒針や蟻酸は昆虫をつかまえるときに使います。多くのアリは毒針を持っているが、人間に対しては大した毒ではありません。アリはハチに近いので、ほとんどのアリが毒針を持っています。

第三部 参加者によるアリについての発表会

当日はオンラインで全国から11組の親子が参加し、1家族につき2分の持ち時間でアリについて発表して頂きました。以下はその概略。

東京都 そうしさん：ありの歩き方とアリがどれくらい重いものを運べるのかを発表してくれました。

• 蟻は自分の体重の50倍の物を持ち上げられます。

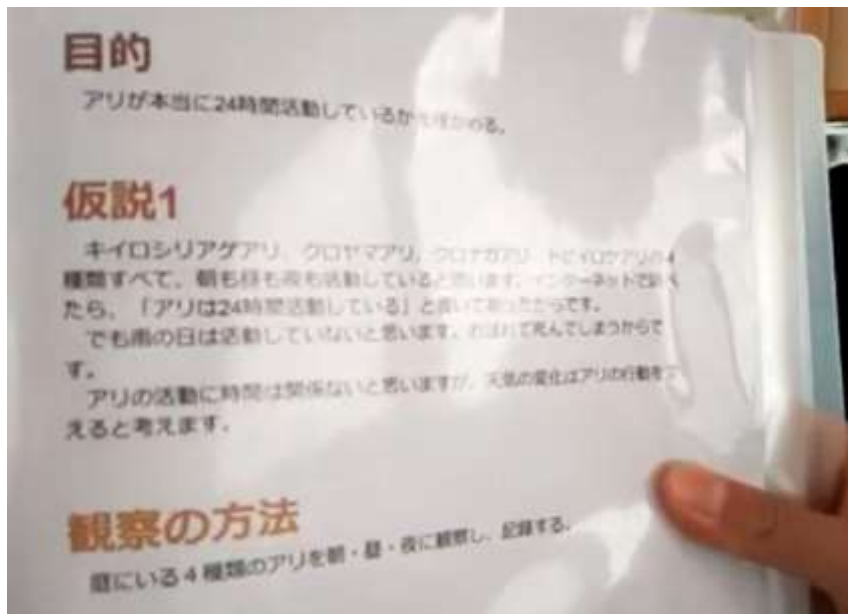
• 人間であればカバを持ち上げられます。

0.003グラム → 3グラム

50キログラム → 3,500キログラム

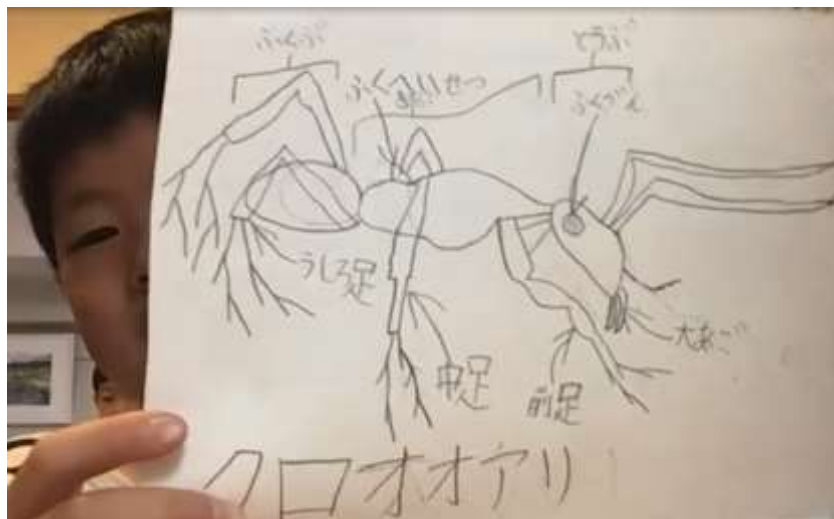
島田先生：アリは力持ちの昆虫としても有名で、一匹でも大きなものを運びます。さらにすごいのは、一匹で運べないときは巣の仲間を呼んで来て、一緒に協力して運ぶことですね。

東京都 ゆきながさん：アリが巣穴の外で活動している時間について発表してくれました。



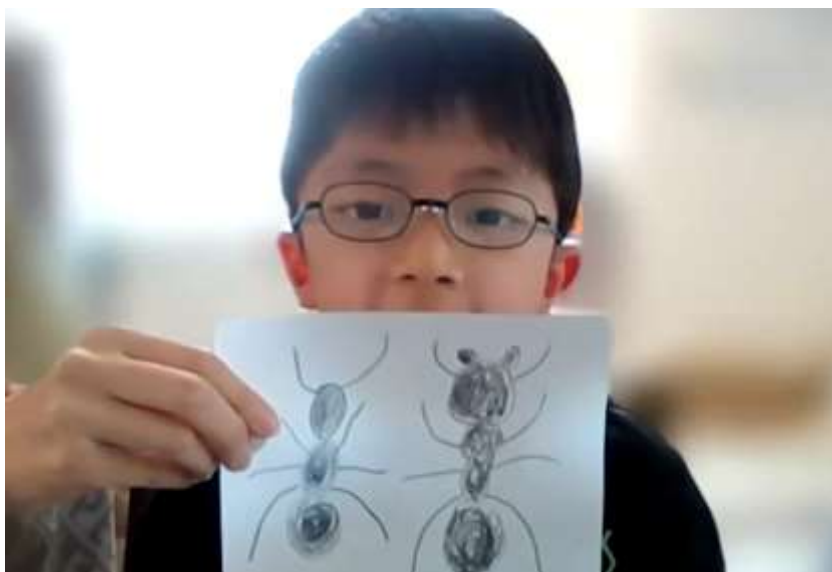
島田先生：アリは主に昼間に活動するものや夜行性のものなど、種類によって活動時間が変わっています。僕もじっくり観察してみたいと思います。

東京都 けいたろうさん：飼っているクロオオアリの体の構造を絵で説明してくれました。



島田先生：アリの特徴が良くわかる素敵な絵ですね。5月のゴールデンウィーク後で最高気温が25度ぐらいになるとクロオオアリの結婚飛行が見られると思います。

東京都 まひろさん：アリと暮らす虫という島田先生の本を読んで、クロオオアリがクロシジミチョウの幼虫を育てていることについて発表してくれました。



島田先生：これからの季節、公園などではアリが活発に活動を始めるので、ぜひ見に行ってください。

東京都 じょうさん：アリの巣観察ケースに、別の巣で捕まえたアリを一緒に入れたら、それぞれ一番端っこに巣をつくることを発表してくれました。



島田先生：とても素晴らしい実験です。アリは同じ種類であっても、同じ巣で暮らすことはありません。体の匂いが違うと別の家族であることがわかり、喧嘩したりほかの場所に巣を作ろうとします。

東京都 ひろのりさん：アリの食べ物の通りについて、本を読んで知ったことを絵にかいて発表してくださいまし。



島田先生：絵の通りで、アリはそのうに食べたものをためて、口移しで他のアリに与えます。しかし、アリの中でも原始的な種類にはそのうがほとんどありません。そのうがないアリは、顎の間にしずくを挟むようにして巣に持ち帰って仲間に与えます。

神奈川県 よしはるさん：図鑑を見て考えたクイズを出します。オオキノコシロアリの巣はとても長いけど、どれだけ長いかわかる先生は知ってますか。答えは3メートルです。



島田先生：オオキノコシロアリは巣の中に糞をして、それでキノコを栽培する面白いアリです。

長野県 あつきさん：自分で観察した身近なアリ4種類について発表してくれました。



島田先生：トゲアリは腰のところに釣り針みたいのとげがあってカッコよくて、僕も大好きなアリです。トゲアリは木の洞に巣をつくるアリですが、洞のある木が減ってきているのでトゲアリも減ってしまい、レッドデータブックに載っている状況です。もし見つけたらその環境を大事にしてあげてください。

岡山県 せなさん：自分の家にいたシロアリについて発表してくれました。



島田先生：家を食べるシロアリとしては、イエシロアリかヤマトシロアリが有名です。イエシロアリの方がやばいシロアリで、家を結構な速さで食べていきます。ヤマトシロアリはイエシロアリほど危険ではないと言われています。普通に見られるのはヤマトシロアリで、普通に公園で暮らしていたりします。

長崎県はるとさん：クワガタを捕りにいったクヌギ林で見つけたムネアカオオアリとアブラムシの関係について発表してくれました。



島田先生：朽ち木を割って出てきたのがまさにムネアカオオアリで、朽ち木の中で家族で暮らしています。知られていないことがたくさんあるので、ぜひまた調べてみてください。

沖縄県 ゆりなさん：家の近くで見つけたアリについて、石垣島ならではの珍しいアリがいることを調べて発表してくれました。



島田先生：日本には 300 種以上のアリがいますが、その半数が南西諸島にいて、カッコいいアリがたくさんいます。

全体の司会進行を務めた細田容子さん



自然観察会とアリについての発表会で司会進行を務めた川嶋直さん



第四部 ご講演「自然と人間について」

東京大学名誉教授／解剖学者 読本「森里川海大好き！」編集委員長

養老 孟司 先生

*イベント当日に養老先生のご自宅からオンラインでご講演いただくことになっていたが、開始直前に、養老先生のご自宅が停電するトラブルが発生したためオンラインでのご講演が不可能となった。そのため、記録動画を養老先生にご覧頂いて、3月19日にオンラインで当日の発表などについてご講評いただくこととなった。

子供さんたちは、とても元気良く小さい虫の話をしてくれて、嬉しかったです。アリに限らずいろんな生きものがあるので、これからも時間があつたら見てほしい。特に現代になると、人の顔を見る方が主になってしまって、誰がどう言ったとか、どう思ったとか、そういうことばかり考えている。「アリは何を考えているのかな」といったことを感えた方が、幸せなんじゃないかな。僕もアリを撮ってみようと思ったことはあるけど、スピードが速い上に小さいので、拡大するとすぐ画面から消えてしまい、上手に撮るのは難しい。



生物学はすっかり変わってしまって、生き物を実験室の中に閉じ込めて研究する方向に行ってしまった。ちょうど僕が働き出した50年以上前のこと。生き物が本来生きている状況で調べるとというのが、すごく減ってしまった。冷暖房完備の建物の中に生き物を入れて、餌も水もいつもある状態。そういうマウスやラットを使って、どうなるかを調べている。僕が研究者の時代にそんな風が変わっていった。自分の研究室に冷房がない時代に動物は冷暖房完備で、こんなの動物かと思っていました。要するに、本来は生きるために様々なことをしなければならぬのに、それが全部無い状況で飼われているのが今の動物なんです。研究の対象になっている動物は、それがどんどん極端になってしまって、ついに細胞になってしまった。IPS細胞みたいに。細胞をガラスの中で飼う。それは僕もやりましたが、まあこれはもう生き物じゃないなど。

そういう意味で、子どもは身近な自然や虫を、自分の眼で見て肌で感じることを知らず知らずのうちにやっている。それがどういう役に立ちますかと必ず聞かれてしまう。今は試験で点数が上がらないと大人が納得しない時代ですが、自然の中に出て活動することが、その子にとってどういうプラスになるかというのは、そう簡単に計算できることではない。子供たちの発表を見て、そこが一番印象的で嬉しかった。若い人がそういうことに目を向

けて一所懸命やっているということ。それはとっても良いことだと思っている。僕らが子供のころは遊ぶものがないので、やむを得ず野山に出て行って生き物を見るしかなかった。今思えば幸せな時代だった。大人は勉強とか塾とは言わないで、それが無くても無事に育っていける時代だった。

特に今回はアリが主題でしたけど、アリは見てると本当に面白いので、一日中見られる。他に何か良いテーマがあるかと考えたが、なかなか難しい。今年の冬は、雪が降ったり寒くなったりと、割とふつうの冬になりました。ここ数年の冬が暖かかったことがわかります。

子供たちはこれから育っていくが、私自身は自然離れを非常に気にしている。特に気になっているのは若い世代の自殺。10~30代の死因のトップは自殺なんです。公園に行ってアリを見てればそんなことにならないだろうけど、人の世界に閉じ込められてしまうと、人の世界の中での毀誉褒貶というか、そういうことが中心になってしまって、そうするとその中で上がったり下がったりになって、心を痛める。

僕が子どもの頃は、世界が二つあった。自然の世界と人の世界。自然の世界がどんどん小さくなって、そこに使う時間もなくなってしまった。そうすると人間の世界だけになってしまい、その中でプラスとマイナスが大きくなってくる。人の世界は僕らが子どもの頃の倍くらいの大きさになっているんじゃないか。それが社会全体に現われているのが少子化。どう対応するのか、対応の仕方がわからなくなってしまった。子供自体要らないとか、極端に言えば無い方が良いでしょう。

動画で子供たちの発表を見て思ったのは、自然と子どもが一体になって動いている様な状況をできるだけ増やしてあげたいということ。根本はやっぱり、スマホを見ている時間より、アリを見ている時間が長い方がいいかなということです。親御さんには、そういう時間を無駄な時間と思わないで欲しい。生きているとはそういうこと。無駄なことだよと、そういうこと。効率を求めるなら、生まれたらすぐにお墓にいったらいいと。それが一番合理的で効率的だと。生きているというプロセスが抜けちゃっている。それは現代の病気です。だから若い人が死んじゃう。そういう意味で言えば、現代社会は完全に病気ですね。生物の社会で一世代ごとに人口が半分になっている、そんな社会は持つはずがないんで、なんで持つはずがない社会を作るんだろうと。それを維持しようと頑張っているけれど、それこそ全く意味がない。

だんだん暖かくなってきたので、そろそろ虫が出ないかなと、このところドキドキしています。ちょうど雨も降ったし今日あたり気温が上がってくれば。アリもシロアリも一斉に出てくるので往生しますね。子供が不思議に思っていることは大事なことで、僕は発見は誰でもできると言っている。自分がものを知らなければ知らないほど発見する。下手に勉強させない方がいい、そうすると早く発見の喜びを発見しますから。子供の指導は難しく、時々知らないふりをしなければならぬ。質問と答えを聞いていると良くわかりますが、全て言葉にできるというメッセージを与えてしまう。自然に親しむことはどこが

良いのですかという話と同じで、そういうのを言葉にできるのか。それは死ぬ話が典型的で、高校生が「何で死んじゃいけないのか」と言う。すると返事に困ってしまう。うまく返事をするのはあまり良いことではなく、言葉で解決できると暗黙のうちに思わせる。生きるというのは言葉じゃありませんから。最近それで困っています、若い人たちとつきあうと。どうやったらそういう誤解が避けられるかとなると、外に連れ出すのが一番良いんですね。外に出ると注意を惹くものがいっぱいありますから。

島田さんが朽ち木を割ってアリの巣を見つけていましたけど、ああいうことはやってあげないと気が付かない事が多い。もうちょっと奥があるよ、ということをお大人は教えてあげると良いと思う。質問に対して安易に答える、あるいは言葉にするということは、あんまり暗黙のうちに進めない様になっている。そうすると年中怒ってないといけないので、機嫌の悪い爺さんになる。これ以上何も見つからないと思っている子は多いが、子供たちはぜひ外に出て。来年も元気でいられれば、ぜひ皆さんと一緒に里山で生き物を見てみましょう。

閉会挨拶 環境省 自然環境計画課長 堀上 勝

今日の観察会はいかがでしたでしょうか。面白くて楽しかったですね。私は環境省で 30 年仕事をしていますが、今日は知らないことばかりでビックリしました。今回はアリについて島田先生からたくさんお話を伺いましたが、アリに興味を持った参加者の皆さんが、これだけいろいろ調べていることにも驚きました。そして今日一番驚いたのは、都会の公園にも 40 種類ほどのアリが暮らしているということで、それが日本全国で見られるということ。沖縄には沖縄の長崎には長崎のアリがいて、そういったところをみんな大切にしていかなければならないと改めて感じました。今日はオンラインですが、ぜひ自然の中に出かけて行って、興味を持って楽しく調べて頂きたいと思います。大人になったら島田先生の様になったり、大学の先生とか、観察会のガイドとか、できれば環境省の国立公園のレンジャーとか、そういった仕事を目指して頂ければ良いのかなと思います。

保護者の皆様もご参加ありがとうございます。コロナ禍で旅行に出かけることも少ない状況ですが、今日のオンラインの事も参考にしながら、ぜひこれからも子どもさんたちと観察会などに行って頂ければと思います。本日は養老先生のご自宅が停電でオンラインでの参加が出来なくなったのは残念ですが、またこの様な機会を作りたいと思っていますので、ぜひまたご参加ください。

最後に記念撮影をして、終了となりました。

